

平成30年度 上河内中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

【校是：よく学び よく鍛えよ】

☆ めざす生徒像

- ・学び鍛える生徒
- ・自他を尊ぶ生徒
- ・気力あふれる生徒

☆ めざす教師像

- ・愛と情熱にあふれる教師
- ・研きあう教師
- ・実践する教師

☆ めざす学校像

- ・楽しく学びあえる学校
- ・協に伸びる学校
- ・信頼される学校

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- （1） 個に応じた教育を進めながら、生徒が生涯にわたって社会の変化に対応し、成長し続けることができるように、その基盤となる「知」・「徳」・「体」のバランスのとれた力の育成に努める。
- （2） 全教職員が使命感と意欲をもって学校経営に参画し、教育課程の具現化に取り組むことで生徒・保護者・地域の信頼や期待に応え、地域とともにある学校づくりに努める。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）「確かな学力」向上をめざして
 - ・学力調査を活用した現状分析と改善策の検討・実践
 - ・学業指導の充実
 - ・家庭学習の充実
 - ・基礎・基本の確実な習得
- （2）豊かな心の育成をめざして
 - ・道徳科（道徳の時間）を核とした心の教育の充実
 - ・体験活動や読書活動を通しての豊かな感性の育成
 - ・自己有用感や相互尊重精神の育成（いじめ・不登校への積極的な取組）
- （3）健康と体力の増進をめざして
 - ・自己の健康管理に努め、進んで運動に取り組む生徒の育成
 - ・食育や保健指導の推進・充実
- （4）未来を生き抜く力の育成をめざして
 - ・社会の動きへの興味・関心の喚起・高揚
 - ・地域の教育力活用と生徒の地域行事への積極的な参加の推進
- （5）教職員の資質・能力及び意欲の向上をめざして
 - ・OJT並びに現職教育や授業公開等の研修を通しての授業力と同僚性の向上
 - ・業務の適正化（効率化・簡略化による負担軽減）
- （6）小中一貫教育と地域学校園の取組の充実をめざして
 - ・小学校と連携した上河内地域学校園としての活動の推進
 - ・実効性のあるものとするための組織・活動内容・課題や改善案等の検討

【上河内地域学校園教育ビジョン】

かしこく、たくましいゆずっ子の育成

～ 基本を身に付け、人とのつながり、夢に向かって生きる子どもをそだてよう ～

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- | | |
|-----------|---|
| 【学 校 運 営】 | ・生徒一人一人を大切に、個に応じた教育の推進
・学業指導の充実による、「学ぶ場」としての学校づくり
・教職員の資質や能力の向上をめざした取り組みの実施と働き方の検討・改善 |
| 【学 習 指 導】 | ・確かな学力を身に付け、主体的に考え表現できる生徒の育成
・学びに向かう集団づくりと学習意欲の向上を意識した指導
・家庭学習を充実させるための課題の出し方の工夫 |

	○・地域学校園としての学習ルール作成
【児童生徒指導】	○・基本的な生活習慣を身に付け、高い規範意識に基づき行動する生徒の育成 ・生徒指導部会や教育相談・特別支援教育部会を中心とした組織的な対応 ・体験活動を踏まえた道徳教育の推進
【健康（体力・保健・食・安全）】	○・地域の特色を生かした食育の推進 ○・生活習慣病予防指導の充実 ・運動生活の習慣化

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケートの「学校は活気があり、明るい」⇒生徒の肯定的回答 90%以上	①学年・学校行事をととして、生徒が主体的に企画・運営を行い、感動ある行事に繋がられるようにする。 ②生徒の自主的活動を充実させられるよう生徒に考えさせる機会を数多く作り、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりを推進する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.5%（昨年度より 2.1 ポイント↑）で目標を 2.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学年・学校行事をととして、生徒が協力しながら主体的に活動できる機会を設け、今まで以上の達成感や自己肯定感を味わわせられるよう取り組む
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」⇒生徒の肯定的回答 90%以上	①校内公開授業（一人一授業）や各種研修会で学んだことを生かし、さらに生徒が興味・関心をもって取り組む授業を工夫・改善する。 ②生徒に関する情報交換を密にし、協力体制の中で、より個に応じた支援を行う。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.5%（昨年度より 1 ポイント↓）で目標を 6.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・確かな学力を身に付けさせるためにも、校内公開授業（一人一授業）や各種研修会で学んだことを生かし、更に生徒が意欲をもって取り組む授業を工夫・改善する。 ・生徒に関する情報交換を密にし、協力体制の中で、より個に応じた支援を行う。
	A3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒生徒の肯定的回答 85%以上	① 学校行事や委員会活動、部活動を通して生徒と対話のできる関係と雰囲気づくりを推進し、マナーを守って生活することの大切さを指導する。 ②体育館移動時に無言で移動する。 ③チャイム 2 分前着席や指名・指示されたときの返事を徹底する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 89%（昨年度より 7.7 ポイント↑）で目標を 4.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学校行事や委員会活動、部活動を通して生徒に、マナーを守って生活することの大切さを指導する。 ・体育館移動時に無言で移動したり、1F廊下の移動の仕方を徹底させたりする。 ・チャイム 2 分前着席、指名・指示されたときの返事を徹底させる。

A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒生徒の肯定的回答 90%以上	① T T やかがやきルームの利用など少人数指導の工夫により基礎基本の定着を図り、本時のめあてを明示し振り返りを記入させることにより、「分かる授業・できる授業」をめざし、指導方法の改善に努める。 ② 「表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業」をテーマとした「一人一授業」を実践し、個々の教員の授業力向上を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.0%で昨年度よりも0.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・ T T やかがやきルームの利用など少人数指導の工夫により基礎基本の定着を図る。また、本時のめあてを明示し振り返りを記入させることにより、「主体的・対話的で深い学びの授業」をめざし、指導方法の改善に努める。 ・「表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業」をテーマとした「一人一授業」を実践し、生徒の学びを中心にみる授業研究から個々の教員の授業力向上を図る。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒生徒の肯定的回答 90%以上	① 休み時間の巡回指導や教育相談、嫌な思いアンケートを利用していじめを早期に発見する努力を行う。また、生徒の不適切な言動に対して細かな声掛けを行う。 ② いじめに対しては、いじめ対策委員会で組織的かつ迅速に対応する。 ③ 保護者会、HP、学級だより等で取組を周知する。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.6%(昨年度より 0.2 ポイント↑)で目標を 10.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・ 休み時間の巡回指導や教育相談、嫌な思いアンケートを利用し、いじめの早期発見・早期対応を行う。また、生徒の不適切な言動に対して細かな指導を行う。 ・ いじめに対し、いじめ対策委員会で組織的に迅速かつ的確に対応する。 ・ 保護者会、HP、各種たより等で取組を周知する。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。 【数値指標】全体アンケートの「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	学年主任会、校務運営委員会、職員会議を効率よく運営し、共通理解や学年間の連携を深め、日課・授業・学校行事等を教育課程に基づいて適切に運用する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 97.7%（昨年度より0.5 ポイント↑）で目標を 7.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学年主任会・各種委員会・校務運営委員会・職員会議を効率よく運営し、共通理解や学年間の連携を深め、日課・授業・学校行事等を教育課程に基づいて適切に運用する。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 各種たよりの発行やHPの更新、保護者会時の説明内容の工夫を通して、積極的に話題性のある情報の発信を行う。 ② 保護者会時に授業参観を実施し、生徒の学校での学習・生活状況を実感してもらう。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 97.2%（昨年度より0.4 ポイント↑）で目標を 7.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・各種たよりの発行やHPの更新、保護者会時の説明内容の工夫を通して、積極的に話題性のある情報の発信を行う。 ・保護者会時に授業参観を実施し、生徒の学習・生活状況を実感してもらう。

教育活動の状況		A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	家庭や上河内中学校地域協議会などと連携し、地域学校園の諸活動と関連させながら、地域人材を活用した諸活動を推進する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 94.7%（昨年度より 2.8 ポイント↑）で目標を 9.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・上河内中学校地域協議会等と連携を図り、地域学校園の諸活動と関連させながら、地域人材を活用した諸活動を推進したり、地域行事へ積極的に関わったりする。
		A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品が整理整頓され、学習しやすい」⇒生徒の肯定的回答 85%以上	①年度初めに清掃係から示された「清掃の取り組み方」をもとに頭おおいをして、教職員と生徒が協力して、清掃を積極的に行う。 ②美化委員会を中心に清掃用具の点検を定期的に行い、清掃用具の充実を図る。 ③荷物の整理を行う。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.1%(昨年度より 2.5 ポイント↑)で目標を 7.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・「清掃の取り組み方」をもとに、役割分担を明確にし、教職員と生徒が協力して清掃を積極的に行う。 ・委員会活動を中心に清掃用具の点検を定期的に行い、清掃用具の充実を図る。 ・荷物の整理を行う。
		A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」⇒生徒の肯定的回答 85%以上	①地域学校園内小中学校間の連絡・調整等を密に行い、冒険活動や進学先中学校訪問等における活動の充実を図る。 ②乗り入れ授業等を通して、各学校間の児童生徒理解を進展させ、地域学校園内の学習指導や生徒指導に関する各部会の活動を活性化する。 ③小中一貫教育の取組を、生徒に周知・徹底を図る。	B	【達成状況】 ・生徒肯定的回答は 81.1%（昨年度より 2.8 ポイント↑）で目標を 3.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・小中一貫教育の日に行われる各種部会等で目的をもった協議を行い、地域学校園内小中学校間の連絡・調整等を行い、冒険活動や進学先中学校訪問等における活動の充実を図る。 ・地域学校園内の学習指導や生徒指導に関する各部会の活動を活性化し、各学校間の学力の向上や児童生徒理解を進展させる。
		B 1 学校全体で心の教育の充実に努めている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は道徳教育をもとに思いやりを育む取組をしている。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①学習指導要領の改訂に基づき、道徳の年計の改善を図る。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 84.5%で目標を 0.5 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・道徳の年計をもとに各学級で実施し、適切な評価を行う。 ・道徳の授業に限らず、学校生活全般において思いやりを育む取組をしていく。
	生活	A 11 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①生徒会や教職員・PTAによるあいさつ運動を活発に行うとともに、部活動であいさつ指導の充実を図る。 ②教職員が率先してあいさつをすることで学校全体が、あいさつをする雰囲気高める。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 80.4%(昨年度より 3.0 ポイント↓)で目標を 0.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒会や教職員・PTAに加え、部活動によるあいさつ運動を行い、あいさつの習慣化を図る。 ・教職員が率先してあいさつを行い、学校全体のあいさつをする雰囲気高める。 ・あいさつのスローガンを各学級に掲示し、生徒のあいさつの意識を高める。

健康・体力	A12 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」⇒保護者の肯定的回答 75%以上	①地域学校園学校生活適応部会で課題として取り上げ、小中合同で場に応じた適切な言葉遣いの継続指導を協力して行い、成果を見極める。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 78.7%(昨年度より 1.1 ポイント↓)で目標を 3.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・小中合同で場に応じた適切な言葉遣いの継続指導を協力して行い、成果を見極める。 ・道徳や学活等で言葉遣いについて振り返りを行い、今後の改善に向けて話し合いを行う。 ・教職員が手本となるような言葉遣いをするよう心がける。
	B2 生徒指導の充実・強化に努めている。 【数値指標】全体アンケートの「教職員はよいところを認め指導すべきところはしっかり指導している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①日々の基本的な生活習慣について定期的にセルフチェックをして振り返らせ、必要な事後指導をする。 ②学級活動や学年集会などを通して、生徒の規範意識を育成する指導の充実を図る。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 87.9%(昨年度より 2.8 ポイント↑)で目標を 7.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・教職員間で共通理解を図り、同じ基準で生徒指導に取り組む。 ・日々の基本的な生活習慣について定期的にセルフチェックをして振り返らせ、必要な事後指導をする。 ・学級活動や学年集会などを通して、生徒の規範意識を高める指導の充実を図る。
	A13 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、休み時間や放課後などに進んで運動している」⇒生徒の肯定的回答 75%以上	①昼休みに体を動かす習慣を付けるために学年生徒会を中心に体育的活動について話し合い、ルール決めや用品の準備をする。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定率は、69.9%(昨年 0.8%↓)で、目標を 5.1%下回った。 【次年度の方針】 ・運動をする生徒としない生徒の二極化が見られるので、運動に親しむような機会や体制づくりに努め、進んで運動する生徒の育成を図る。 ※4～6 運動会種目、7～12 球技、1～3 長縄跳びなど ・保健学習、健康指導で運動の意義について啓発を図る。
	A14 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、好き嫌いなく給食を食べている」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	①お弁当の日に関わる指導や食育日より、給食時の放送などを通して、栄養バランスについて正しく理解させる。 ②学校給食委員会や親子料理教室等を通して、保護者に食育活動推進の協力を依頼する。	A 【達成状況】 ・生徒肯定率は、85.4%(昨年度より 5.8%↑%)で、目標を 5.4%上回った。 【次年度の方針】 ・栄養士を中心にお弁当の日に関わる指導を充実させ、栄養バランスや食育に関する啓発を図る。 ・スポーツと栄養などの講演会に部活動ごとに参加するなど食育活動推進に協力を依頼する。 ・親子料理教室の参加に関しては、生徒のみの参加も受け入れ、食に関する興味・関心をもたせながら、料理を作る楽しさを味わわせる。

本校の特色・課題等	学 習	B3 健康・体力の維持・増進に努めている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、健康を考えて行動している」⇒生徒の肯定的回答90%以上	①新体力テストの結果から、自己の体力や日常生活を振り返らせ、より望ましい運動習慣の取組を促す。 ②定期健康診断の結果で異常があった場合には、早期の受診を勧めるとともに、保健だより等で望ましい生活習慣について啓発を図る。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答固定率は、90.7%（昨年度より1.7%↓）で、目標より0.7%上回った。 【次年度の方針】 ・新体力テストの結果から、自己の体力や日常生活を振り返らせ、より望ましい運動習慣の取組を促す。 ・定期健康診断の結果で異常があった場合の受診率が低いため、各担任から保護者懇談等において、保護者に口頭で伝えることにより、受診率をアップさせるなど望ましい生活習慣について啓発を図る。
		A15 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」⇒生徒の肯定的回答85%以上	①本時のめあてをしっかりと具体的に提示し、見通しをもたせる授業を展開する。 ②図書委員会と協力して家庭学習ノートの提出の徹底を図り、家庭学習の習慣化を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、89.4%で昨年度よりも2.7ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・本時のめあてを具体的に提示し、見通しを持ちじっくり課題に取り組める授業を展開する。 ・図書委員会と協力して家庭学習ノートの提出を徹底し、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。
		A16 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒生徒の肯定的回答80%以上	①卒業後の進路や3年間の学習計画を見通して授業に臨めるように、マンダラート等を活用し具体的な目標を立てさせる。 ②落ち着いて学習に取り組めるよう、黒板周囲の掲示物の整理など特別支援教育的な配慮をした教育環境の整備に努める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、85.9%と昨年度よりも10.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・卒業後の進路や3年間の学習計画を見通して授業に臨めるように、マンダラート等を活用し具体的な目標を立てさせる。 ・落ち着いて学習に取り組めるよう、黒板周囲の掲示物の整理など特別支援教育的な配慮をした教育環境の整備に努め、地域学校園で設定した「ゆずっ子学びの5つの約束」の実践を図る。
		B4 自分の考えを豊かに表現する力と豊かな心（関心・感動・感謝・思いやり等）の育成が図られている。 【数値指標】生徒へのアンケートの「生徒は、文化祭や総合的な学習の時間などで、充実した発表ができた。」⇒保護者の肯定的回答が90%以上	①豊かな心の育成を意図した掲示物や校内放送の充実を図る。 ②「総合的な学習の時間発表会」の準備では発表の仕方を学ばせ、発表の質を高める。 ③各行事における振り返りの内容を工夫して、自分の感動体験をより実感させる。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は98.1%(昨年度より2.8ポイント↑)で目標を8.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・授業などの道德教育を通して、豊かな心の育成を図る。 ・「総合的な学習の時間」で発表の仕方を学ばせ、発表の質の向上を図る。

B5 豊かな表現力を支える言語能力を向上させるため、読書の習慣化を図る。 【数値指標】生徒へのアンケートの「私は、読書が好きです」⇒生徒の肯定的回答が 75%以上	①「朝の読書」の時間が充実するように、廊下の掲示物を作成し、生徒の興味関心に応じた図書の選定、探しやすく見付けやすい図書室の配架、定期的な学級文庫の入替等を行い、図書を借りやすい環境作りをする。 ②生徒会図書委員会活動の工夫による読書啓発、図書ボランティアをより活用した読み聞かせやブックトークを計画的に行い、読書に対する興味関心を高める。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が、90.7%と昨年度より12.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・「朝の読書」の時間が充実するように、廊下の掲示物を作成し、生徒の興味関心に応じた図書の選定、探しやすく見付けやすい図書室の配架、定期的な学級文庫の入替等を行い、図書を借りやすい環境作りをする。 ・図書委員会の工夫による読書啓発、教職員や図書ボランティアを活用した読み聞かせやブックトークを計画的に行い、読書に対する興味関心を高める。
---	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

◇教職員（24項目）、保護者（22項目）、地域住民（20項目）及び生徒（21項目）の全アンケート87項目において、67項目において、肯定的回答が85%以上という評価が得られた。昨年度と比較すると、教職員は14項目においてポイントが下がっており、中でも質問項目のNo.9、No.13、No.14に10ポイントの下がり見られ課題となった。保護者は逆に11項目においてポイントが上がっており、中でも質問項目のNo.6、No.7、No.8に肯定的回答が90%以上という高評価が得られた。地域住民は18の質問項目に肯定的回答が90%以上という高評価を得られたが、中でもNo.17は13.1ポイントも上がりが見られた。しかしながらNo.13においては5.7ポイント下がってしまい本校の課題が浮き彫りとなった。生徒に関しては、13の質問項目にポイントの上昇が見られ、昨年よりも肯定的回答割合が高いことがわかる。

特に、改善が見られた項目と課題がある項目は以下の通りである。

◇市と本校の比較表からは、市中学平均値を上回った項目は66項目中42項目になった。特に、No.10とNo.19においては教職員、保護者、地域住民及び生徒の肯定的回答が市の平均を上回った。しかしながら、No.15においては教職員、保護者、生徒の肯定的回答が市の平均を下回った。特に、本校生徒の肯定的回答は69.9%、市の平均は80.8%であり、市の平均よりも10ポイントも下回り、本校の生徒の健康面からも運動の奨励が必要である。

【改善が見られた項目】

- ・No.4「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」平成28、29、30年度の3年間を比較すると保護者、地域住民及び生徒の肯定的回答が上がってきた。
- ・No.5「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」平成28、29、30年度の3年間を比較すると保護者、地域住民及び生徒の肯定的回答が上がってきた。
- ・No.10「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている。」平成29、30年度の2年間を比較すると教職員、保護者、地域住民及び生徒の肯定的回答が上がってきた。

【課題のある項目】

- ・No.9「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である。平成28、29、30年度の3年間を比較すると教職員、地域住民の肯定的回答が下がってきた。特に、教職員の肯定的回答が70.4%で低い。
- ・No.13「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」平成29、30年度の2年間を比較すると教職員、保護者、地域住民の肯定的回答が下がった。特に、教職員の肯定的回答が74.1%で低い。
- ・No.14「生徒は、時と場に応じた言葉づかいをしている。」平成29、30年度の2年間を比較すると教職員、保護者の肯定的回答が下がった。特に、教職員の肯定的回答が74.1%で低い。

【学校運営の状況】

- ・明るく活気のある学校が維持できるよう、学年・学校行事を通して、生徒が協力しながら主体的に活動できる機会を設け、今まで以上の達成感や自己肯定感を味わわせられるよう取り組む。〈学校運営〉

- ・教職員は、協力体制の中で、学習ルールや学習習慣の定着を図り、授業の教材研究や校内公開授業（一人一授業）の充実により、生徒の意欲を高め、より個に応じた支援を行うための指導力を高める。〈学校運営〉
- ・保護者会時の公開授業や各種学校行事で、生徒が熱心に取り組む姿を保護者や地域住民等に実際に参観してもらい、学校ＨＰ等の様々な機会や方法で生徒が活躍する様子について情報提供に心掛ける。〈学校運営〉

【教育活動の状況】

- ・図書委員会と協力して家庭学習ノートの提出の徹底を図ることで、家庭学習を習慣化させ、授業中の学びの確実な定着を図る。〈学 習〉
- ・生徒が落ち着いて学習に取り組めるよう教育環境の整備に努める。また、卒業後の進路や３年間の学習計画を見通して授業に臨めるように、マンダラート等を活用し具体的な目標を立てさせる。〈学 習〉
- ・あいさつの活性化に向けて、あいさつ運動に多くの生徒が参加できるようにする。〈生 活〉
- ・教職員が手本となる言葉遣いを心掛ける。学活等で生徒自身が自らの言葉遣いについて振り返り、今後の課題の改善に向けて話し合いを行う。〈生 活〉
- ・「生徒は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」の生徒の肯定的回答割合が昨年度よりも低くなっていることを踏まえて、健康面を維持するためにも休み時間等の積極的な運動を促す。〈健康体力〉
- ・休み時間を利用して、生徒たちが積極的に運動することができるように、環境整備を整えたり、教職員の共通理解を図ったりするなど、全校体制で体力増進に取り組めるようにする。〈健康体力〉
- ・新体力テストの結果から、生徒の体力低下が浮き彫りとなり、体育の授業を中心に「体づくり運動」や「体力づくり」を積極的に取り入れ、生徒の体力向上に努める。〈健康体力〉
- ・給食の残量がととても少ないので、地産地消を有効活用し、今まで以上に学校農園の食材や地元の新鮮な食材を利用し、おいしい給食の提供を継続する。〈健康体力〉

【本校の特色・課題等】

- ・全校生徒による「心に残る一冊」の紹介、図書委員会による読書啓発、教職員や図書ボランティアによる読み聞かせやブックトークを計画的に行い、読書に対する興味・関心を高める。〈学 習〉
- ・総合的な学習の時間の発表会では、発表形態を学年によって変えることで、話し手・聞き手の両方の意識を高め、生徒の考えを表現する力を育む。〈生 活〉
- ・「生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している」の肯定的回答割合は、８０％を超え高いことがわかる。今年度以上に生徒がボランティア活動に参加するためにも、学校教育活動等を調整しながら、生徒への積極的参加を促すよう心掛ける。〈学校運営〉

6 学校関係者評価

◇地域住民からは、全体アンケートの肯定的回答割合が、全質問項目において８５％を超え昨年同様高い評価を得られた。特に、「生徒は授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している」の肯定的回答割合が９２．３％と、昨年度に比べ１０ポイント以上の上昇が見られた。

２月に行われた本年度最後の地域協議会では、「うつのみや学校マネジメントシステム」に基づく学校評価について説明をした。その中で、No.１０の「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている」の教員、保護者、地域住民の肯定的回答割合が９０％を上回り、生徒の肯定的回答割合も８１．１％と昨年に比べて２．８ポイント上昇していることから、改善が見られたといえる。さらに、No.１９の「生徒は地域でのボランティア活動や行事に参加している」の教員、地域住民の肯定的回答割合が１００％で、保護者、生徒の肯定的回答割合は８１．９％、８２．４％といずれも８０％を超え、改善が図られているといえる。しかしながら、課題となった質問項目もあり、早急に改善が必要なものも見られた。特に、No.９の「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」の教職員の肯定的回答割合が７０．４％と最も低く、No.１３の「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」の教職員の肯定的回答割合が７４．１％、さらにNo.１４の「生徒は、時と場に応じた言葉づかいをしている」の教職員の肯定的割合が７４．１％と、いずれも昨年に比べて１０ポイントも下回った。この結果を踏まえ、学校としては早急に取り組めるものはないかと考えた。そこで、清掃時の開始と終わりを全校一斉に行い、清掃に対する意識づけから始めることにした。地域協議会委員からはNo.９の結果を踏まえ「片付けができない」のではなく、「片付け方を知らない」ので、どのように片付けるかというところから教え、まずは手本を見せるべきであるという意見も出た。また、No.１３、No.１４においては、あいさつや言葉遣いを意識させるために、４校共同で毎年作成している「ゆずっ子カレンダー」に強化年間目標を掲げ、あいさつや言葉遣いなどについて、児童生徒の意識を少しずつ変えられるのではないかという意見が出た。このことに対しては、地域協議会コーディネーターから、平成３１年度の「ゆずっ子カレンダー」に、あいさつや言葉遣いを呼びかけられるコーナーを設けることは可能であると提案があった。

No.15の「生徒は、休み時間や放課後などに積極的に運動をしている」については、生徒の肯定的回答割合が69.9%であり70%を下回った。このことから生徒の運動に対する意識が低く、生徒全体の体力低下に繋がっているのではないかと懸念されている。また、運動離れも心配されている。そこで体育科としては、5月に全校一斉の新体力テストを実施し分析を行い、体力を高めるための補強運動や、体づくり運動などを積極的に体育の授業の中に取り入れている。また、11月にも同じ体力テストを実施し、体力の向上が図られているかを検証している。地域協議会委員からは、「昼休み等に体育館等を開放しているのか」という質問もあり、生徒が進んで運動ができるよう活動場所の調整を行うことにした。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

◇学校関係者からは、高評価を受けたことで自信に繋がるところもあるが、次年度さらなる高い評価を得るためにも、課題となっている質問項目に対し、全職員で課題解決のための取組を実践していきたいと考える。

○一つ目には、No.10の「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている」に関しては、地域学校園内で今まで以上の連携を図り、特に、児童生徒の学力向上のために、「ゆずっ子学びの5つの約束」と「学力向上アクション6プラン」を4校共通理解の下、継続して実践していく。

二つ目には、No.19の「生徒は地域でのボランティア活動や行事に参加している」については、地域の体育祭ボランティアや福祉祭りボランティアなどにも積極的に参加できるよう情報を提供し、地域に貢献できるようにする。

三つ目には、No.9の「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」については、強化していかなければならない項目の一つである。生徒が自主的に清掃に取り組み、教室の整理整頓がされ、学習しやすい環境にするためには次のことを実践する必要があると考えられる。

- ・掃除分担場所ごとの清掃開始・終了のあいさつではなく、各階のフロアーごとにチャイムの合図と同時にあいさつをして、一斉に掃除を始める。また、掃除の終わりのチャイムと同時に反省会を行うことにより、生徒が時間を意識して清掃に臨めるようにする。
- ・教員も、自ら率先して掃除に取り組み、生徒のよい模範となれるよう心掛けると同時に、学年を超えた清掃指導を意識することが大切である。
- ・安全点検係を中心に、学校業務嘱託員・機動班と連携を図り、生徒が気持ちよく学習することができるように、常に教室等の環境整備に心掛ける。

○四つ目には、No.13の「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」また、No.14の「生徒は、時と場に応じた言葉づかいをしている」については、地域学校園全体の課題としてとらえ、児童生徒が自ら進んであいさつができたり、丁寧な言葉づかいができたりするための「あいさつ運動」を推進していく。

- ・生徒会を中心としたあいさつ運動を活性化させ、宇都宮一あいさつができる地域学校園を目指す努力をする。
- ・平成31年度「ゆずっ子」カレンダーに、あいさつ運動を称賛するコーナーを設け、地域学校園（生徒児童）のあいさつに対する意識を高める工夫を実施する。「強化年間目標：元気なあいさつ、丁寧なことばづかい」
- ・学校生活の中で、丁寧な言葉づかいを意識させるためにも、教職員自ら丁寧な言葉づかいを使い、児童生徒と対話するよう心掛ける。

五つ目には、No.15の「生徒は、休み時間や放課後などに積極的に運動をしている」については、昼休み校庭で遊ぶ生徒の数は少なく、運動離れが懸念されている。また、運動する生徒としない生徒の二極化が進み、体育科としても体力の低下が緊急の課題となって表れてきている。そのためにも積極的に運動することの大切さを周知し、体育の授業の中においても体力づくり運動を継続して行い、体力増強とともに運動ができる喜びを味わわせられるよう工夫する。

- ・運動ができる環境を整える。
- ・健康委員を中心に、運動の大切さを考えさせ、昼休み等に運動をするよう呼びかけを行う。
- ・体育科を中心とした体力増強推進を継続して行う。（授業の中での補強運動や体づくり運動）